

7月14日は内視鏡の日！

犬の異物誤飲、1歳未満は成犬の約4倍！

異物誤飲での通院率

1歳未満 (n=171,564)	2.3%
1歳以上 (n=168,399)	0.6%

7月14日は内視鏡の日。そこで、動物病院で内視鏡検査を行う最も多い傷病の1つである、犬の異物誤飲に関するデータを検証した。

犬 339,963 頭(※)のうち、異物誤飲での通院数 4,891 頭で、1.4%であった。

※2001年1月から2007年6月までの「どうぶつ健保」のべ契約数

1歳以上と1歳未満と比較したところ、1歳以上の犬の異物誤飲での通院割合は0.6%であったのに対し、1歳未満の犬の異物誤飲の割合は2.3%であり、1歳未満の犬のほうが異物誤飲で動物病院に通院することが多いと分かった。特に幼齢期は、色々なものを誤って飲み込んでしまう傾向にあるため、生活環境や遊び方にも十分な注意が必要であるといえる。

また、異物誤飲してしまった場合、様子を見てしまうことで命に関わる問題が起こることもある。異物誤飲に気付いた時は、できるだけ早く動物病院に相談することが大切だ。そして、事故をくり返さないよう、予防を心がけたい。

「内視鏡の日」は、“内視”の語呂合わせ(714=ナイシ)から認定された。(2006年7月1日認定)。内視鏡は、1950年に日本において世界で初めて胃カメラによる胃内撮影に成功して以来、全世界の医学各分野における様々な診療科で検査・診断・治療に役立てられている。